

うになるといいですね」

「はい。」
と、力強い返事。いつか子どもたちは、小さな芽になりきって目を輝かせ、背筋をピンとさせている。

「うわっ、みんなすごいなー。しっかり根がついたみたいです。よし、先生も今日から、みんなと仲よし、みんなの芽がぐんぐん育つようしっっかり応援しますよ」

子どもたちの顔は安心の色でいっぱいである。

「みなさんは、太陽が好きですか」

この言葉を糸口に、その後、子どもたちと私の会話がしばらく続き、太陽はいつも明るく、強く、そしてやさしくてみんなのためになるというまとめにたどりついた。

「みなさんが、大人になったら、太陽のような人になってほしいと先生は思います。では、これから先生の作った太陽マンのお話をします」
と、その時

「先生、Tくん、ぼくのことをたたきました。ぼく何もしないのに」

「うそだ。Kくん、ぼくのおしりつつついたの」

と、二人とも口をとがらせ、今にも泣きだしそうである。

「二人とも、どれどれ、先生にはじめからお話してごらん」

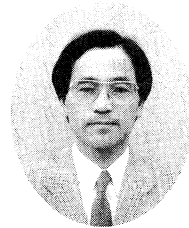
「あの……。あの……。Tくんは……。」
と、会話が続く。

私は、おちついた気持ちで二人の言い分を聞いて聞いてやっていた。やがて、二人はもとのニコニコ顔にもどった。

しおれた芽をつみとってしまふことは、ごく簡単である。しかし、私たちは、一つ一つの芽をしっかりとみつめ、どのようにすると、その芽は生き

初心に学ぶ

木下 忠 孝



(福島市立平野小学校教諭)

生きと伸びていくか、授業の中で、又日常生活の中で温かく見守ってやるこ

とが大切であると思う。
いつか、しっかりと根をはった大木になり、太陽に届く大人になることを期待しながら……。

曲がりくねった山道を通りぬけ、やっと思えた人家。四月というのに、道路や校庭にあるいっばいの雪。この光景は、新任教師として赴任した私の不安を一層募らせた。耶麻郡山都町立山都第三小学校川入分校。飯豊山の登山口にもなっている山あい小さな学校である。春は野山いっばいの山菜、夏は清らかな川での水遊び、秋は色あざやかな紅葉、そして、冬は豪雪。四季折々に変化する豊かな自然に恵まれた所である。

新任教師にとって、毎日の授業や生徒指導など、どれをとっても戸惑うことばかり。教科書や指導書と首っぴきになりながら国語は、算数は、音楽は……どう指導したらよいのだろう。指導内容も指導技術も十分に身について

意になって手本を示してくれた。スキーマの時は、分校の全児童が先生であり、私が生徒である。
分校の近くにある林の中には、なめこの原木がたくさんあった。それらを見ながら、なめこができるまでの様子をいろいろ話してくれたT子。

子どもと共に遊び、共に学び、話し合う中で、ある時は子どもの立場になり、子どもに教えてもらうこともたびたびあった。また、一人一人の子どもの考えや内面的な部分も、少しずつとらえることができるようになった。

無我夢中で過ごした三年間。学力面で、子どもたちに十分力をつけることができたという確信はあまりないが、子どもと共に学び、子どもたちのために精一杯がんばったように思う。

あれから十五年たち、中堅と言われる年代になった。新任教師のころに比べれば、学習指導や生徒指導など、ある程度の余裕と見通しをもって指導ができるようになった。しかし、毎日の授業はマンネリ化した指導になっていないだろうか、一人一人の子どもを見つめ、心をとらえた指導をしているだろうか、教育にかける情熱を忘れかけてはいないだろうかなど、反省させられるこのころである。

無限の可能性をもっている子どもたちを伸ばしてやるために、そして、子どもたちの幸せのために、なお一層自己研修に励むつもりである。
(いわき市立夏井小学校教諭)